

実験工房12 SONY TA-E86に第2世代シリーズ電源搭載

第2世代シリーズ電源モジュール、BC24A10Ver、BC24A22Ver、を使い、往年の名機SONY TA-E86 電源整流を改造、21世紀の最新テクノロジーで、世界の倍音再生（自然界の音）の可能なパワーAMPに変身させる実験。

AES 東京コンベンション2005で技術発表した第2世代シリーズ電源モジュールを使い古いアンプに載せかえただけで、欠落していた音声信号すべて再生され、CDをヘッドフォンで聴いたときの音そのままSPから再生できる。

往年の名機SONY TA-E86改造記

ソニーが1978年に発売した高級プリアンプ。TA-N86のペアとなるプリアンプとして発されました。当時流行していた薄型の筐体に、ソニーの素子技術、回路技術を結集した中身の充実した実力機でした。TA-E86の大きな特徴は、内部の整然としたコンストラクションにありました。MCヘッドアンプ、イコライザーアンプ、バッファアンプ、フラットアンプの各回路ブロックを最短距離になるように並べ、各信号ブロック間のリード線をなくしプリント基板上をストレートに信号が伝送されるような構造になっていました。また、L・Rチャンネルそれぞれのアンプが前後に2台並べられた構造になっており、完全にツインモノ・コンストラクションになっていました。ボリュームやスイッチ類も基板上に配置されており、そのため、信号経路に沿ってボリュームやスイッチが配置されたソニー独自のボリュームが左側にあるフロントパネルデザインとなり、入力端子、出力端子もストレートな信号経路に沿って配置され、右側から入力され、左側に出力される特異な構造となっている。

従来コンデンサ・インプット回路を使ったAMPでは音声信号の毎サイクル約950 μ s、欠落（時間軸で言うと600 μ sの立ち上がり遅れ）が存在する、第2世代シリーズ電源モジュール、に置き換えることで倍音再生（自然界の音）の可能な、半導体AMPに変身することが出来る。

作業内容

回路図内の電源整流回路部の前段イコライザー $\pm 8.4V$ 整流回路を第2世代シリーズ電源モジュールBC24A10HVer、フラットアンプ $\pm 29.5V$ をBC24A22HVer、に置き換えC:25V 1,000 μ F $\times 4$ 、42V 3,300 $\times 4$ 、を使い完璧なDC電源部を作成

試聴

“全く凄い”の一言です、なんとと言っても飛び出した音は別世界という形容です、音像というか解像度、繊細さ全く一激変しました、予想道理ビロードのような滑らかで吸い込まれる音色、情報量が多く、低域がしまり、高域の透明感1ランクも2ランクも上がった感じ、

改造費

BC24A10HVer、¥11,000-

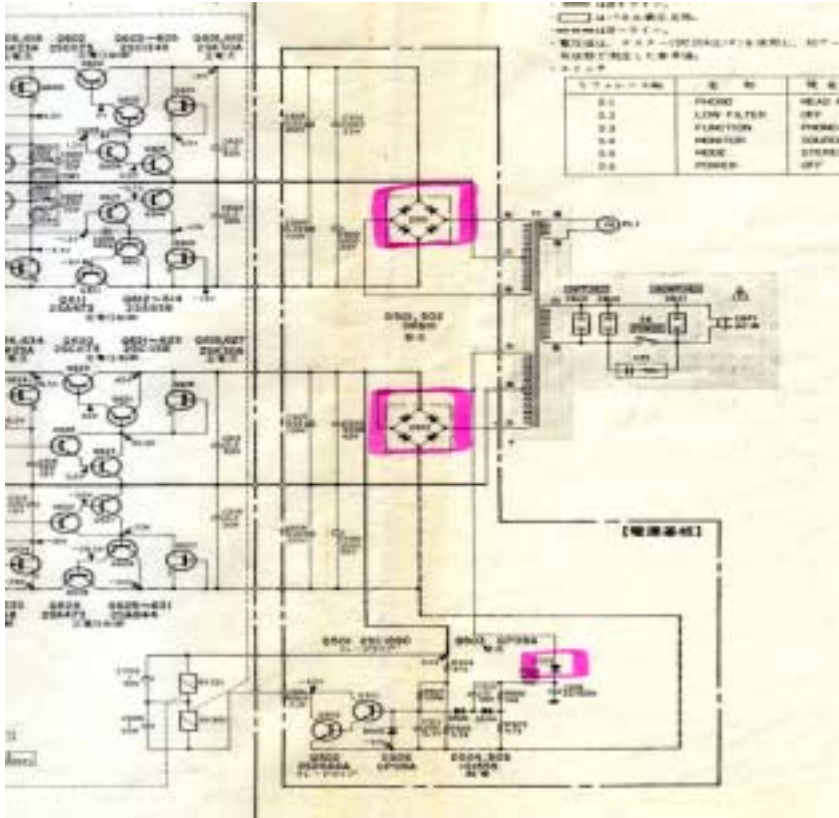
BC24A22HVer、¥12,000-

コンデンサ $\times 8$ ¥2,000-

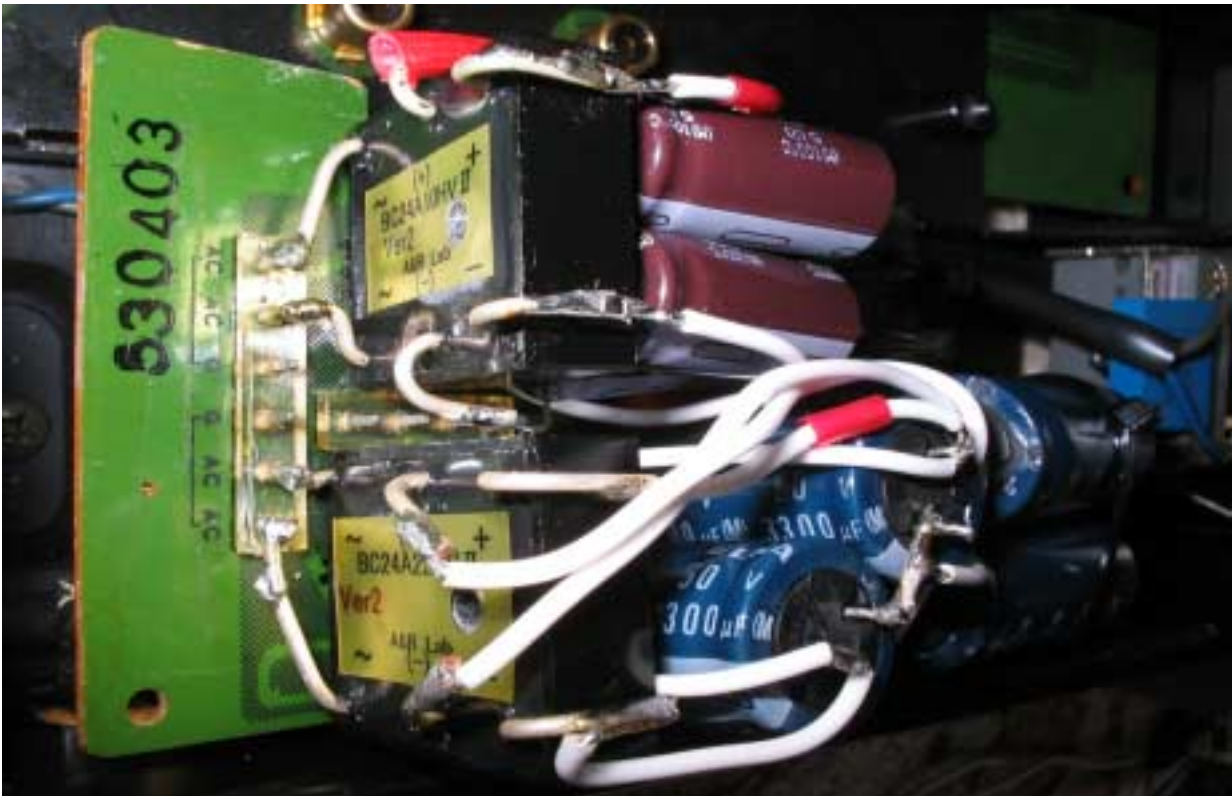
技術料 10,000-

計 35,000--

で改造引き受けます。



TA-E86 イコライザー±8.4V、フラットアンプ±29.5V整流回路を 第2世代電源モジュールに置き換え。



電源基板